第23回埋蔵文化財調査資料展

盛岡を発掘する

平成17年度調査速報

あかやきどき【あかやき土器】　土師器（はじき）と似ているが、須恵器（すえき）製作の技法で作られた土器。ロクロを使って作られ、市内では9世紀から出土するようになる。

あさばち【浅鉢】　高さが口径の1／3以上1／2未満の土器の器形を浅鉢というが、明確な基準で分類はできない。おもに縄文時代の土器に使う呼称。

浅鉢（繁遺跡出土浅鉢）

いこう【遺構】　過去の人間が地面に残した痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基壇、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

いせき【遺跡】　過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所で、そのどれかがそなわっていればよい。全国におよそ44万ヶ所が数えられ、盛岡市内には749ヶ所が登録されている。文化財保護法では埋蔵文化財包蔵地と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられており、人間の歴史を考える上で貴重な役割を担っている。一般的に所在地や字名をもとに名前をつける。学術資料であるばかりでなく、現代生活の足元に眠るその地域のオリジナリティを体現する環境の一部である。

いせきのまなびかん【遺跡の学び館】　2004（平成16）年6月1日に、開館した盛岡市の埋蔵文化財センター。市内遺跡の発掘調査・整理作業・資料収蔵管理・展示活用をおこなっている。大館町遺跡発掘現場を再現した遺跡ディスカバリーは発掘現場の臨場感を味わえる。日本最大の縄文土器（高さ93センチメートル・大館町遺跡出土深鉢）も展示されている。

いぶつ【遺物】　過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など過去の人間が加工・製作した人工遺物と、加工の痕跡はなくとも鉱物や、動植物の遺存体など人間活動の結果もたらされた自然遺物の二つに分けられる。

いぶつほうがんそう【遺物包含層】　土器などの遺物が含まれる層のこと。雨などで土が流された時、遺物も一緒に流されて堆積する場合のほか、不要になった土器などが捨てられてできる場合などがある。

えんとうしきどき【円筒式土器】　特に東北北部と北海道南西部に分布する縄文時代前期～中期の土器。土器の形が筒のようであることから命名された。

円筒式土器（川目C遺跡出土深鉢）

おうしゅうふじわらし【奥州藤原氏】　前九年・後三年の合戦を経て、平泉を拠点とし東北地方一円を治めた豪族。城柵胆沢城の在庁官人として権力を振るった安倍氏や出羽国で権力を誇った清原氏の基盤を受け継いだものと考えられる。平泉に仏教文化と都市文化を花開かせた。

おとしあな【陥し穴】　動物を捕獲するために追い込んで落とす穴状の罠。平面形は細長い溝状や丸いものなど様々である。

かめ【甕】　弥生時代以降の煮炊や液体の貯蔵にもちいられた容器の名称。長胴甕・球胴甕など。

かわらけ【かわらけ】　土師器の系譜につながる素焼きの椀・皿・坏形の土器。都市や城館、寺院などから多く出土し、灯明皿や儀式・饗宴などにおける酒坏や皿として使われた都市型・非日常型の土器。素焼きで安価であることから、清浄の象徴として再使用しない慣わしである。権威の象徴として、儀式・饗宴の規範を実現するために用いられたものと考えられる。

甕（堰根遺跡出土甕）

しゅうこう（こう）【周溝（濠）】　古墳や墳丘墓の周りを掘り込んだ溝（濠）。

すえき【須恵器】　窯で1000℃以上の温度で焼かれたもの。もとは朝鮮半島から伝わった土器。市内では8世紀以降に出土するようになる。

だいぎしきどき【大木式土器】　大木囲貝塚（宮城県）より出土した土器を指標とし、縄文時代前期から中期に分類される土器型式。故山内清男氏によって命名された。

たてあなじゅうきょ【竪穴住居】　地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の住居。夏は涼しく、冬は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代までつづき、中世に入った後も竪穴建物として、半地下式の建物を利用していた。縄文時代には炉が、古代には壁にかまどが備え付けられる。

竪穴住居跡（志波城跡S1459竪穴住居跡）

つき【坏】　古代の最も一般的な食器。椀よりも浅く、皿よりも深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で丸底・平底、蓋の有無、高台の有無などの違いが見られる。

どぐう【土偶】　主に、縄文時代に盛んに作られた土製の人形。女性や母性の象徴といわれ祈りや祭祀（さいし）に使われていたと考えられる。

どこう【土坑】　人が意図的に掘った穴のこと。埋葬・貯蔵・ごみ捨て・粘土採掘・掘立柱・などの多様な意図がある。穴、ピット。

どこうぼ【土坑墓】　穴を掘って墓壙とし、そこに遺体を納めた墓。棺のないものを指し、形状や深さは様々である。

はじき【土師器】　野焼きで約700～800℃の温度で焼かれたもの。縄文・弥生土器の流れを汲む素焼きの土器。

ふかばち【深鉢】　口縁部が大きく開いた鉢形の土器。縄文土器に用いられる用語。おもに、煮炊き用に使われる。

深鉢（重要文化財繁遺跡出土深鉢）

ふくそうひん【副葬品】　遺体にそえて墓に納めた品物。縄文時代や古代では、特別な地位にいた人に納める傾向がある。

ふんきゅうぼ【墳丘墓】　周溝や盛土をして、一定の範囲を区画して墓域としたものをいう。古墳と区別されて使われる。

ほったてばしらたてもの【掘立柱建物】　地面に穴を掘り、そこに下端部を直接埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴のことを掘り方という。

みっけ【みっけ】　市遺跡の学び館マスコットキャラクター。平成16年6月1日生まれ。チャームポイントはうずまきもようの髪形。好きな食べ物はどんぐりクッキー。

もっかん【木棺】　材質に木材を使用した遺体を納める棺。時代や地域によって、割竹形木棺・箱形木棺などの形態がある。

やじり【鏃】　矢の先端に付けて狩りなどに使用する。材質により石・鉄・銅など種類や形は様々である。

ろ【炉】　火を焚いた場所。一定の場所で焚き続けると熱で地面が赤く変色する。石で囲んだ石囲炉、土器を埋め込んだ埋甕炉、複式炉、住居の床面で火を焚いた地床炉など形態は多種多様である。

上：石鏃　下：鉄鏃

平成18年2月1日～3月22日　　盛岡市遺跡の学び館

宿田遺跡第7～10次調査（前九年）

縄文時代早期（約8500～6000年前）の集落跡と、奈良～平安時代にかけての墓域が広がる遺跡です。今年度の調査は、個人住宅新築にともなう調査をおこない、縄文時代早期の竪穴住居跡2棟、陥し穴4基、奈良時代の古墳（墳丘墓）1基などの遺構がみつかりました。また、遺物は縄文時代早期・前期の土器や黒曜石製の石器、奈良時代の土師器、滑石製平玉などです。今回の調査で初めて、主体部の残されている古墳（墳丘墓）がみつかりました。墳丘は削平されていましたが、平面規模は直径約10mの円墳で、周りに幅2～3m、深さ60cmの周溝が掘られていました。主体部には木棺の痕跡が残っており、副葬品として鉄製の直刀が2振、鉄鏃1点、針状の鉄製品1点が出土しました。今回の調査は、本遺跡や周辺の遺跡を含め地域の歴史を考えるうえで重要な発見といえるでしょう。

古墳（墳丘墓）

谷地頭遺跡第9次調査（厨川）

これまでの調査により縄文時代の陥し穴が発見されており、当時はシカなどを捕獲した狩猟場であったと考えられる遺跡です。今年度の調査は、駐車場造成にともなう事前調査として行いました。その結果、縄文時代の陥し穴27基が見つかりました。遺物は石鏃１点のみで、時期を示す土器などは発見されていませんが、これまでの発見例から縄文時代後期～晩期（約3000～4000年前）に作られたものと考えられます。陥し穴は2～3基単位でまとまって配置されているようです。遺跡の西と南は斜面になり水が湧くことから、 当時は湿地だったようです。縄文人はそこに集まる動物を狙っていたのかもしれません。

調査区全景

堰根遺跡第13次調査（浅岸）

これまでの調査で縄文・弥生・平安・中世にわたる各時代の遺構・遺物が見つかっています。今年度の調査は、区画整理にともなう事前調査として行いました。その結果、縄文時代の土坑30基、陥し穴2基、平安時代の竪穴住居跡2棟、溝跡2条のほか縄文～平安時代の遺物包含層などが確認されました。今年度の調査をもって、昭和63年度から始まった浅岸地区土地区画整理事業に伴う発掘調査は全て終了しました。

遺物包含層　土器出土状況

～今年度調査した遺跡～

細谷地・台太郎・南仙北・飯岡才川遺跡（本宮・向中野）

これらの遺跡は盛岡南新都市整備（盛南開発）にともなった調査が実施されており、奈良・平安時代の集落跡を主体として、中世や近世の屋敷跡や縄文時代の遺構が見つかっています。今年度も盛南開発にともなった調査を実施し、各遺跡とも平安時代の集落跡や縄文時代の陥し穴、近世の建物跡などを検出しました。なかでも、細谷地遺跡の畑跡（平安時代）、台太郎遺跡の土坑墓（平安時代）、南仙北遺跡の大型竪穴住居跡（平安時代初頭）、飯岡才川遺跡の倉庫跡（平安時代）や9世紀前葉の土師器蓋の出土などが特筆されるものです。

台太郎遺跡　調査区全景

飯岡才川遺跡　調査区全景

繋V遺跡第30次調査（繋）

市内でも有数な縄文時代中期（約5000～4000年前）を代表する拠点的な集落遺跡のひとつで、重要文化財に指定されている深鉢7点が出土しています。今年度の調査は、市道建設にともなう調査をおこない、縄文時代前期～中期（約6000～4000年前）の遺物包含層がみつかりました。調査区は集落が広がる台地の東斜面に位置し、竪穴住居を作る際に掘った土や壊れた土器・石器などを捨てる場所として利用していたと考えられます。出土した遺物は、縄文時代中期の土器や石器を中心に、土偶や装身具などが出土しているほか、久慈産と思われる「コハク」や北東北を中心に使われていた「円筒式土器」がみつかっており、さまざまな地域と交流していたことがわかりました。

調査風景

大宮遺跡第13次調査（本宮）

これまでの調査で、平安時代末の集落跡や溝跡が見つかっており、その溝跡からは12世紀末～13世紀初頭頃の土器が少量出土しています。今年度の調査は下水道管配管工事にともなって行われました。調査の結果、現在の道路にそった大規模な溝跡を検出し、その底面付近から12世紀末～13世紀初頭（平泉・奥州藤原氏時代直後頃）のものと考えられるかわらけが多数出土しました。溝跡の方向などから、その時代には現在の大宮神社境内内に一般的な集落とは違った性格の施設があり、儀式や宴会を行っていたことを示すと考えられますが、詳細については不明です。古代末～中世初期の周辺環境を考える上での貴重な資料といえるでしょう。

溝跡出土かわらけ

盛岡市内のおもな遺跡と時代

	時代	年代	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡
原始	旧石器時代	約12,000～	館坂遺跡（前九年）	
	縄文時代	草創期 約8,500～	大新町遺跡（大新町）	
		早期 約6,000～	大新町遺跡（大新町） 館坂遺跡（前九年） 庄ヶ畑A遺跡（庄ヶ畑） 新茶屋遺跡（山岸）	宿田遺跡（前九年）
		前期 約5,000～	上八木田遺跡（八木田） 畑遺跡（上米内）	繋V遺跡（繋） 堰根遺跡（浅岸）
		中期 約4,000～	大館町遺跡（大館町） 柿ノ木平遺跡（浅岸） 繋V遺跡（繋） 上米内遺跡（上米内） 川目C遺跡（川目） 湯沢遺跡（湯沢）	繋V遺跡（繋） 大館町遺跡（大館町） 堰根遺跡（浅岸）
		後期 約3,000～	大葛遺跡（浅岸） 落合遺跡（下米内）	谷地頭遺跡（厨川）
		晩期 約2,300～	上平遺跡（猪去） 手代森遺跡（手代森） 湯壺遺跡（湯沢） 川目A遺跡（川目）	
弥生・古墳	弥生時代	約1,700～	手代森遺跡（手代森） 一本松遺跡（下米内）	
	古墳時代	4～7世紀 約1,300～	永福寺山遺跡（下米内） 薬師社脇遺跡（浅岸） 上田蝦夷森古墳群（黒石野） 竹鼻遺跡（上鹿妻）	宿田遺跡（前九年）
古代	奈良時代	8世紀 約1,200～	太田蝦夷森古墳群（上太田） 百目木遺跡（三本柳） 台太郎遺跡（向中野） 西鹿渡遺跡（三本柳）	
	平安時代	9～12世紀 約800～	志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） 前野遺跡（浅岸） 乙部方八丁遺跡（乙部） 林崎遺跡（下太田） 稲荷町遺跡（稲荷町）	南仙北遺跡（向中野） 飯岡才川遺跡（飯岡新田） 台太郎遺跡（向中野） 細谷地遺跡（向中野） 堰根遺跡（浅岸） 大宮遺跡（本宮）
中世	鎌倉～戦国時代	13～16世紀 約400～140年前	落合遺跡（下米内） 里館遺跡（安倍館町） 安倍館遺跡（天昌寺町）	
近世	江戸時代	17～19世紀	盛岡城跡（内丸） 南部家墓所（北山）	台太郎遺跡（向中野） 小幅遺跡（本宮） 一本松遺跡（矢巾町赤林）

遺跡の学び館セミナー「今年度の調査報告」

～繋V遺跡・宿田遺跡・盛南地区遺跡群・大宮遺跡～

■日時／平成18年3月5日（日）13:30～15:00　■講師／遺跡の学び館職員
■会場／盛岡市遺跡の学び館 研修室（定員80名）　※入場無料・直接会場におこし下さい。

今年度の発掘調査の成果について、調査担当者が映像等をまじえてわかりやすく解説します。